

## 水稻の生育状況と今後の管理対策（第2号）

平成30年6月12日  
新潟県農林水産部

### 〔要約〕

#### コシヒカリ・こしいぶき

- ◎ コシヒカリは、6月上旬の好天により、指標値（生育のめやす）に比べて葉数の進みがやや早く、茎数は「多い」状況です。
- ◎ コシヒカリ・こしいぶきは、ただちに茎数を確認し、中干し（なかぼし）<sup>\*1</sup>を開始しましょう。

#### つきあかり・ゆきん子舞

- ◎ つきあかり・ゆきん子舞の多収栽培には、一定の穂数の確保が必要です。茎数が目標穂数<sup>\*2</sup>の8割に達してから中干しを開始しましょう。

\*1 中干し：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと。

\*2 つきあかりの目標穂数は㎡当たり350～450本、ゆきん子舞は420～460本。

### 〔6月11日現在の生育〕

- コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」状況です。
- 長岡市に設置した調査ほ場では、茎数は指標値に比べ、こしいぶきが「並」、つきあかりが「やや多い」、ゆきん子舞が「並」の状況です。

### 〔今後の生育見込み〕

- 6月7日発表の1か月予報（6月9日から7月8日まで）によると、気温、降水量、日照時間ともに、ほぼ平年並の見込みです。北陸地方は平年よりも2日早く6月10日ごろに梅雨入りしたと見られます。
- 梅雨時期の降雨と曇天により、茎数が急増し草丈が伸びる可能性があります。

### 〔当面の管理対策〕

- コシヒカリは、茎数が目標穂数の7～8割に達した時期に、速やかに中干しを開始しましょう。  
こしいぶきやつきあかり、ゆきん子舞などは、茎数が目標穂数の8割に達してから中干しを開始しましょう。
- 中干しは、田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつく程度とします。ただし、生育量が大きくなっているコシヒカリは強めに中干しを行い、茎数の増加を抑えましょう。
- コシヒカリ BL 以外の品種で、いもち病の箱施用剤を使用していない場合は、必ず葉いもち防除を行いましょう。
- 補植苗は、葉いもち病の伝染源になるので、速やかに除去しましょう

### ◎ 今後の管理対策発行予定日

6月21日・29日、7月11日・20日・26日・31日、8月21日、9月12日

## 〔補足資料〕

### 1 農業普及指導センター及び作物研究センターにおける生育状況

- コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」状況です（表1）。
- こしいぶき、つきあかり、ゆきん子舞は、茎数が「並」から「やや多い」状況です（表2、表3、表4）。

#### (1) コシヒカリ

表1 県内全域のコシヒカリ生育調査ほ調査結果（6月11日現在）

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	30.5 cm	29.5 cm	並	104%
茎数	249 本/m <sup>2</sup>	220 本/m <sup>2</sup>	多い	115%
葉数	7.2 葉	6.8 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色 (SPAD 値)	38.5	36.8	やや濃い	+1.7

注) 県内全域の生育調査ほデータの平均値

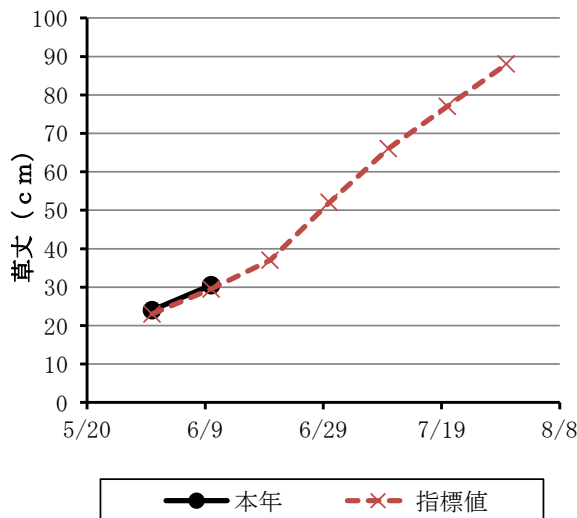


図1 コシヒカリの草丈の推移  
(県全体)

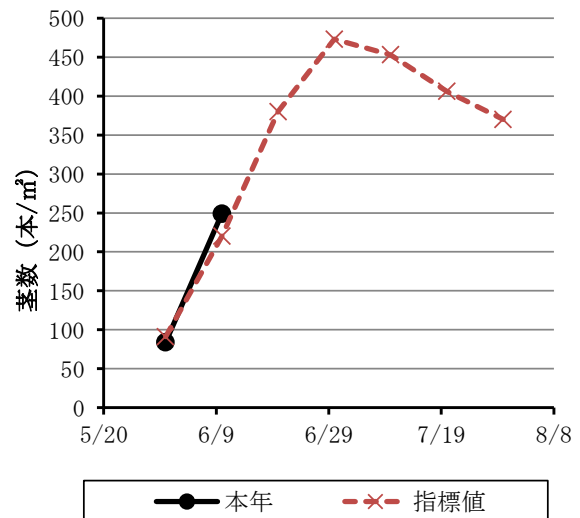


図2 コシヒカリの茎数の推移  
(県全体)

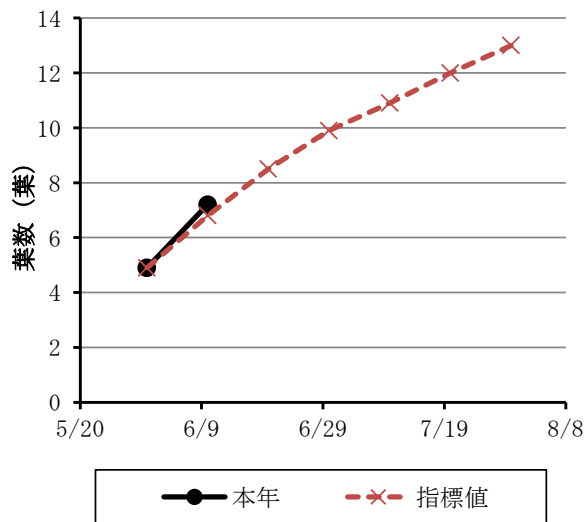


図3 コシヒカリの葉数の推移  
(県全体)

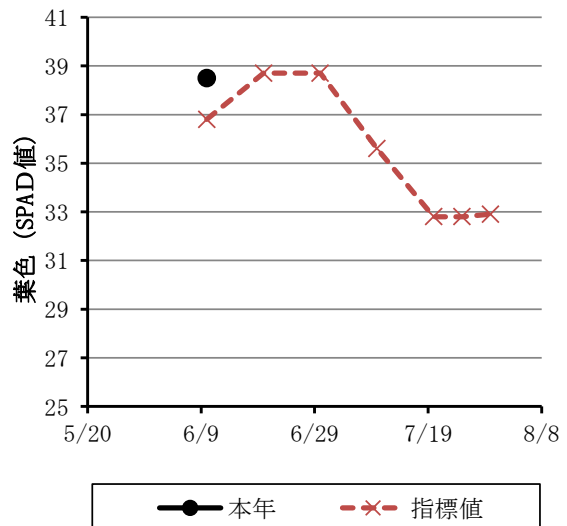


図4 コシヒカリの葉色の推移  
(県全体)

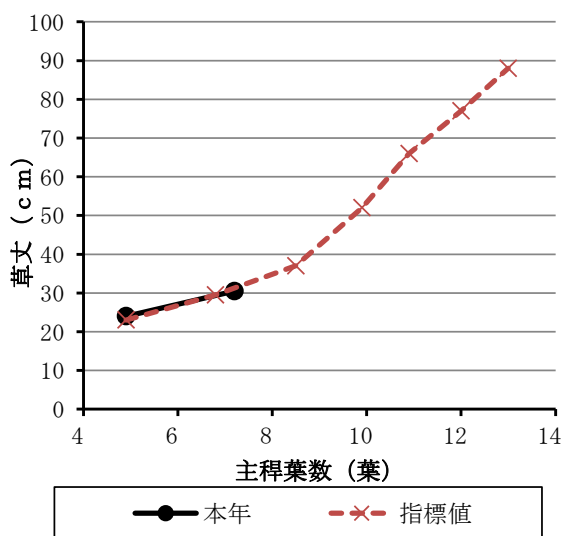


図5 コシヒカリの葉数と草丈  
(県全体)

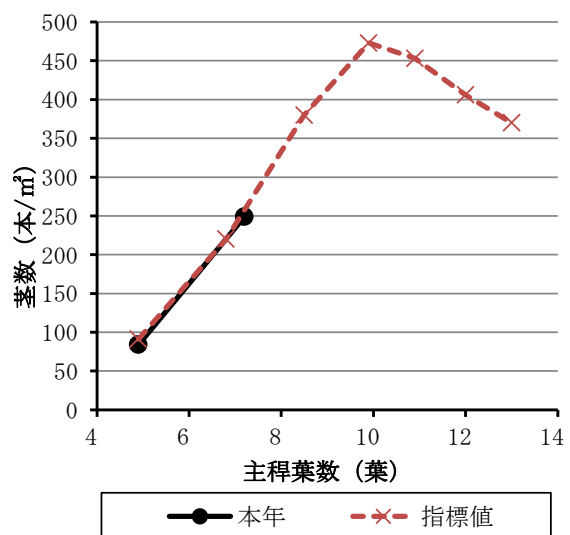


図6 コシヒカリの葉数と茎数  
(県全体)

(2) こしいぶき、つきあかり、ゆきん子舞

表2 こしいぶきの生育(調査日:6月11日)

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	28 cm	27 cm	やや長い	106%
茎数	329 本/m <sup>2</sup>	321 本/m <sup>2</sup>	並	103%
葉数	7.8 葉	7.6 葉	並	+0.2 葉
葉色 (SPAD 値)	40.9	39.5	やや濃い	+1.4

注1) 化成肥料栽培。田植え5月11日、栽植密度は19.6株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ

表3 つきあかりの生育(調査日:6月11日)

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	37 cm	33 cm	長い	112%
茎数	318 本/m <sup>2</sup>	300 本/m <sup>2</sup>	やや多い	106%
葉数	7.9 葉	7.8 葉	並	+0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	42.5	42.0	並	+0.5

注1) 化成肥料栽培。田植え5月8日、栽植密度は21.2株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 7.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ

表4 ゆきん子舞の生育調査ほ調査結果(6月11日現在)

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	35 cm	35 cm	並	100%
茎数	370 本/m <sup>2</sup>	380 本/m <sup>2</sup>	並	97%
葉数	8.5 葉	8.0 葉	やや早い	+0.5 葉
葉色 (SPAD 値)	40.1	40.0	並	0.1

注1) 化成肥料栽培。田植え5月1日、栽植密度は18.6株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 1.68kg/10a(前作枝豆)

注3) 長岡市高野町の生育調査ほデータ

2 地力窒素の発現状況

○ 移植日からの日平均地温は平年より約 0.3℃高い。  
 5月10日以降の窒素発現量は化学肥料区、堆肥区ともに平年よりやや多い（表6）。

表5 地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査） (mgN/100g)

調査日		5月10日 (初期値)	5月29日①	6月10日②	地力窒素発現量※ <sup>1</sup> (③=②-①)
化学肥料区	本年	3.3	4.5	4.9	0.3
	前年	3.1	3.9	4.8	0.9
	平年	2.3	2.8	3.3	0.5
堆肥施用区	本年	3.2	4.6	5.2	0.5
	前年	3.5	4.9	5.6	0.7
	平年	2.7	3.4	4.1	0.6

※1 小数点2ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

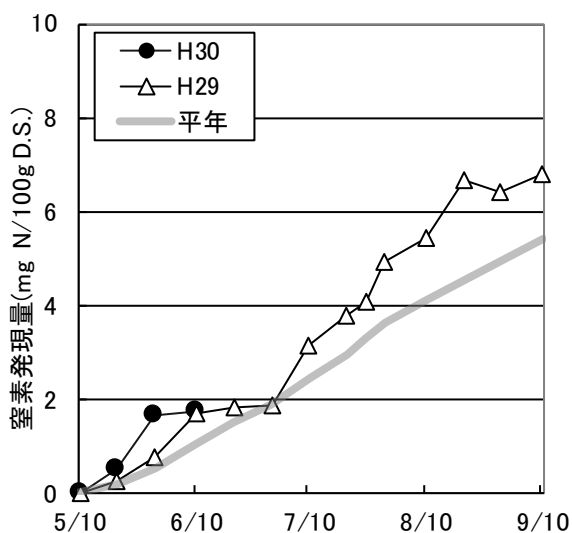


図7 地力窒素の発現推移  
(化肥区；初期値を0とした)

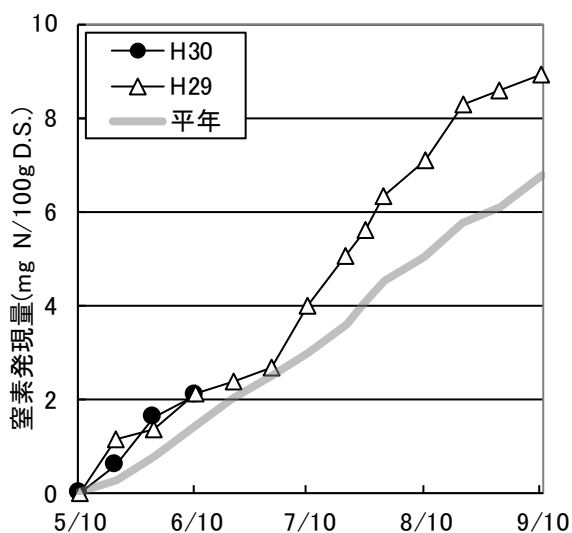


図8 地力窒素の発現推移  
(堆肥区；初期値を0とした)

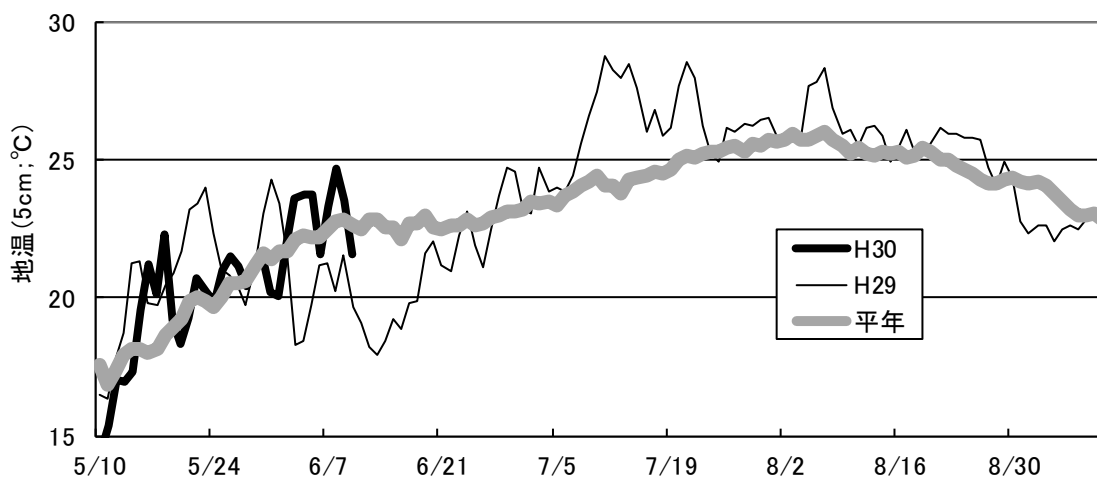


図9 地温 (5cm) の推移